

第1 吹田市肺がん検診及び結核検診実施状況

【受診率の算出方法】

- ・算出対象は40～69歳。
- ・対象者数＝当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率＝（当該年度の受診者数÷対象者数）×100

【初回受診者について】

- ・前年度に吹田市肺がん検診の受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類される。

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率＝要精検者数÷受診者数×100
- ・精検受診率＝精検受診者数÷要精検者数×100
- ・早期がん割合＝早期がん÷がん発見数×100
- ・がん発見率＝がん発見数÷受診者数×100
- ・陽性反応適中度＝がん発見数÷要精検者数×100

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は各プロセス指標値の基準値を決定し公表している。

【参考】精度管理指標と基準値(40～69歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.0%以下
がん発見率	0.06%以上
陽性反応適中度	3.0%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

【参考】旧プロセス指標(40～74歳)

精検受診率	許容値	70%以上
	目標値	90%以上
要精検率	許容値	3.0%以下
がん発見率	許容値	0.03%以上
陽性反応適中度	許容値	1.3%以上

参照：厚生労働省平成20年3月
がん検診事業の評価に関する委員会報告

<喀痰検査について>

国の指針による対象者(50歳以上で、喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)600以上の方)にて集計。

(参考)喀痰細胞診の指導区分

- A：判定不能
- B：異常なし
- C：6か月以内の再検査
- D：要精検（悪性の可能性のある細胞を認めたため、精密検査が必要）
- E：ただちに要精検（悪性の腫瘍細胞を認めたため、早急に精密検査が必要）

1 肺がん検診実施状況(令和6年12月1日時点)

(1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

表1-1 令和3年度～令和6年度(4～9月)肺がん検診実績(40～69歳)

年 区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (4～9月)
対象者数	148,911	149,812	150,777	
受診者数	9,332	9,350	8,896	4,049
受診率	6.3%	6.2%	5.9%	
初回受診者数	3,560	3,927	3,612	1,753
初回の割合	38.1%	42.0%	40.6%	43.3%

参考：令和4年度受診率比較(40～69歳)

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	6.0%	4.8%	6.0%

出典：1) 令和4年度地域保健・健康増進事業報告

2) 大阪府におけるがん検診令和4年度(2022年度)

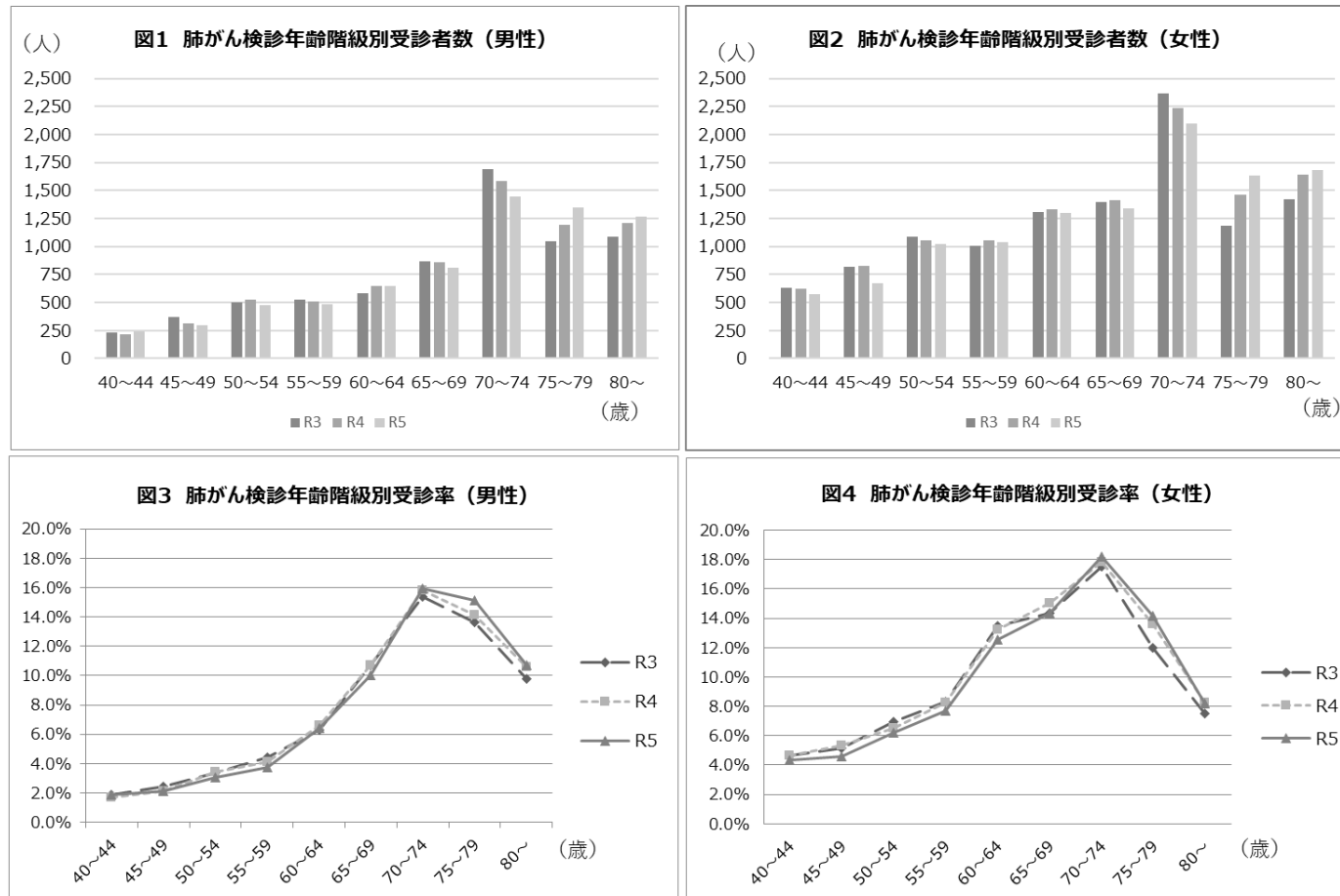
表1-2 令和3年度～令和6年度(4～9月)肺がん検診実績(40歳以上全年齢)

	令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	220,984			222,810			221,793					
受診者数	17,217	913	18,130	17,928	744	18,672	17,705	668	18,373	8,495	222	8,717
受診率	7.8%	0.4%	8.2%	8.0%	0.3%	8.4%	8.0%	0.3%	8.3%			
初回受診者数	5,692	421	6,113	6,639	313	6,952	6,321	296	6,617	3,212	112	3,324
初回の割合	33.1%	46.1%	33.7%	37.0%	42.1%	37.2%	35.7%	44.3%	36.0%	37.8%	50.5%	38.1%

【結果】

- ・令和5年度の40～69歳の受診率は個別検診・集団検診を合わせると5.9%であった。令和4年度と比較すると、0.3ポイント減少している。(表1-1)
- ・令和5年度の40歳以上の全年齢での個別検診・集団検診の受診率は、令和4年度より0.1ポイント減少している。(表1-2)
- ・令和5年度は受診率、受診者数ともに減少している。(表1-1、1-2)
- ・各年度ともに初回受診者の割合は、個別検診と比べて集団検診は高い傾向である。(表1-2)

(2) 令和3年度～令和5年度 肺がん検診年齢階級別受診者数・受診率



【結果】

- ・年齢階級別受診者数では、男女ともに 70～74 歳が最も多く、次いで 75～79 歳となっている。年度別に比較すると 74 歳以下の年齢層で男女ともに受診者数は減少傾向である。(図 1、図 2)
- ・各年度の各年齢階級とも、受診率は男性より女性のほうが高くなっている。また、男女ともに 70～74 歳の受診率が最も高い。年度ごとに傾向に変化はない。(図 3、図 4)

(3) 年次別要精検者の状況について

ア 40～69 歳の年次別要精検者の状況

表 1-3 令和 3 年度～令和 6 年度（4～9 月） 肺がん検診要精検者内訳【40～69 歳】（X 線判定：E 喀痰判定：D・E）

		令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)
		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰	
受診者数		8,671	661	357	9,332	8,838	512	377	9,350	8,431	465	342	8,896	3,901	148	170	4,049
要精検者数		224	12	0	236	220	9	0	229	207	11	0	218	93	7	0	100
要精検率		2.6%	1.8%	0.0%	2.5%	2.5%	1.8%	0.0%	2.4%	2.5%	2.4%	0.0%	2.5%	2.4%	4.7%	0.0%	2.5%
精検受診者数		212	11	—	223	215	8	—	223	203	10	—	213	78	4	—	82
精検受診率		94.6%	91.7%	—	94.5%	97.7%	88.9%	—	97.4%	98.1%	90.9%	—	97.7%	83.9%	57.1%	—	82.0%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	104	7	—	111	112	5	—	117	98	2	—	100	27	3	—	30
	がん	4	0	—	4	5	0	—	5	4	1	—	5	0	0	—	0
	がん疑い	1	0	—	1	1	0	—	1	1	0	—	1	3	0	—	3
	GGO/GGN	4	0	—	4	1	0	—	1	0	0	—	0	0	0	—	0
	転移性肺腫瘍	1	0	—	1	1	0	—	1	0	0	—	0	0	0	—	0
	活動性結核	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0
	その他	98	4	—	102	95	3	—	98	100	7	—	107	48	1	—	49
未受診／未把握		12	1	—	13	5	1	—	6	4	1	—	5	15	3	—	18
がん発見率		0.05%	0.00%	0.00%	0.04%	0.06%	0.00%	0.00%	0.05%	0.05%	10.00%	0.00%	0.06%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
陽性反応適中度		1.8%	0.0%	0.00%	1.7%	2.3%	0.0%	0.00%	2.2%	1.9%	9.09%	0.00%	2.3%	0.0%	0.00%	0.00%	0.0%

【参考】精度管理指標と基準値（40～69 歳）

精検受診率	90%以上
要精検率	2.0%以下
がん発見率	0.06%以上
陽性反応適中度	3.0%以上

参照：厚生労働省令和 6 年 7 月
がん検診の在り方に関する検討会

【参考】旧プロセス指標（40～74 歳）

精検受診率	許容値	70%以上
	目標値	90%以上
要精検率	許容値	3.0%以下
がん発見率	許容値	0.03%以上
陽性反応適中度	許容値	1.3%以上

参照：厚生労働省平成 20 年 3 月
がん検診事業の評価に関する委員会報告

【参考】プロセス指標比較（令和 2 年度）（40 歳以上）

	全国	大阪府	吹田市
要精検率	2.09%	2.29%	3.40%
精検受診率	82.7%	86.7%	95.7%
がん発見率	0.06%	0.08%	0.07%
陽性反応適中度	2.64%	3.51%	2.20%

参照：国立がん研究センター がん情報サービス
「がん登録・統計」がん検診のプロセス指標

【結果】（表 1-3）

- ・要精検率については、各年度とも基準値 2.0%以下を上回っており、基準値を満たしていない。
- ・令和 3 ～ 5 年度では、精検受診率は基準値 90%以上を満たしている。
- ・がん発見率については、令和 5 年度では基準値 0.06%以上を満たしている。
- ・陽性反応的中度については、各年度とも基準値 3.0%以上を満たしていない。

イ 40 歳以上全年齢の年次別要精検者の状況

表 1-4 令和 3 年度～令和 6 年度（4～9 月） 肺がん検診要精検者内訳【40 歳以上全年齢（X 線判定：E 喀痰判定：D・E）】

		令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)
		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰	
受診者数		17,217	913	935	18,130	17,928	744	971	18,672	17,705	668	926	18,373	8,495	222	466	8,717
要精検者数		635	25	0	660	595	16	1	611	639	19	0	658	289	14	0	303
要精検率		3.7%	2.7%	0.0%	3.6%	3.3%	2.2%	0.1%	3.3%	3.6%	2.8%	0.0%	3.6%	3.4%	6.3%	0.0%	3.5%
精検受診者数		614	24	—	638	569	15	1	585	608	17	—	625	234	8	—	242
精検受診率		96.7%	96.0%	—	96.7%	95.6%	93.8%	—	95.7%	95.1%	89.5%	—	95.0%	81.0%	57.1%	—	79.9%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	254	9	—	263	217	9	—	226	234	4	—	238	68	3	—	71
	がん	12	0	—	12	17	0	—	17	18	1	—	19	0	0	—	0
	がん疑い	8	1	—	9	7	0	—	7	9	—	—	9	18	0	—	18
	GGO/GGN	11	0	—	11	5	0	—	5	4	—	—	4	0	0	—	0
	転移性肺腫瘍	2	0	—	2	3	0	—	3	1	—	—	1	0	0	—	0
	活動性結核	0	0	—	0	0	0	—	0	1	0	—	1	0	0	—	0
	その他	327	14	—	341	320	6	1	327	342	12	—	354	147	5	—	152
未受診／未把握		21	1	—	22	26	1	—	27	30	0	—	30	57	6	—	63
がん発見率		0.07%	0.00%	0.00%	0.07%	0.09%	0.00%	0.00%	0.09%	0.10%	5.88%	0.00%	0.10%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
陽性反応適中度		1.9%	0.0%	0.00%	1.8%	2.9%	0.0%	0.00%	2.8%	2.8%	5.26%	0.00%	2.9%	0.0%	0.00%	0.00%	0.0%

【参考】精度管理指標と基準値（40～74 歳）

精検受診率	90%以上
要精検率	2.4%以下
がん発見率	0.10%以上
陽性反応適中度	4.1%以上

参照：厚生労働省令和 6 年 7 月
がん検診の在り方に関する検討会

【結果】（表 1-4）

- ・令和 3 ～ 5 年度では、精検受診率は基準値 90%以上を満たしている。
- ・要精検率については、各年度とも基準値 2.4%以下を上回っており、基準値を満たしていない。
- ・がん発見率については、令和 5 年度では基準値 0.1%以上を満たしている。
- ・陽性反応的中度については、各年度とも基準値 4.1%以上を下回っており、基準値を満たしていない。

2 肺がん検診(個別検診)のX線判定状況 (令和6年12月1日時点)

＜X線判定について＞（吹田市の読影体制）

一次読影にて d・e判定：要精検 b・c判定は二次読影へ

二次読影にて b・c判定：最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却

二次読影にて d・e判定：読影委員会(三次読影)へ

（参考）X線判定の意味（最終判定は大文字で記載）

b：異常所見を認めない

c：異常所見を認めるが、精査を必要としない

d：異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる(肺がんは否定)

e：肺がんの疑い ※国の報告に従い、E判定を肺がん検診要精検とする

表 2-1

令和5年度肺がん個別検診読影内訳(人) 受診者数 17,705 人

＜一次読影＞			＜二次読影＞			※＜読影委員会＞		
b	14,462	17,336	b	13,782	403 2.9%	B	56	13.9%
c	2,874		c	3,151		C	44	10.9%
d	31		d	6		D	1	0.2%
e	338		e	397		E	302	74.9%
合計	17,705		合計	17,336		合計	403	

＜＜令和5年度最終X線判定＞＞		
B	13,838	78.2%
C	3,197	18.1%
D	31	0.2%
E	639	3.6%

＜＜令和5年度読影委員会結果＞＞	
がん	12
うち0～I期がん	4
陽性反応的中度	3.9%
がん照会中	1

【結果】

・令和5年度は受診者数 18,373 人のうち、一次読影で b・c 判定となった 17,336 人に対して二次読影を実施し、d・e 判定となった 403 人に対して三次読影を実施している。そのうち E 判定となったのは 302 人で肺がんと診断されたのは 12 人であった。

表 2-2

令和6年度（4～9月）肺がん個別検診読影内訳(人) 受診者数 8,497 人

＜一次読影＞			＜二次読影＞			※＜読影委員会＞		
b	6,908	8,345	b	6,497	221 2.6%	B	33	14.9%
c	1,437		c	1,627		C	30	13.6%
d	15		d	4		D	1	0.5%
e	135		e	217		E	157	71.0%
合計	8,495		合計	8,345		合計	221	

＜＜令和6年度（4～9月）最終X線判定＞＞		
B	6,679	76.6%
C	1,711	19.6%
D	24	0.3%
E	305	3.5%

3 肺がんであったケースの詳細（令和6年12月1日時点）

表 3-1 令和5年度 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・臨床病期分類が確定している 17 人のうち、初回 9 人、非初回 8 人だった。初回の 9 人のうち 4 人がⅠ期、5 人がⅡ期以上で発見されている。非初回 8 人のうち、3 人がⅠ期、5 人がⅡ期以上で発見されている。非初回で臨床病期分類がⅡ期以上の 5 人のうち、前年度の肺がん検診の結果は、最終判定 B 判定が 4 人、C 判定が 1 人だった。
- ・臨床病期分類が確定している 17 人のうち、組織型は腺がん 11 人、扁平上皮がん 3 人、小細胞がん 1 人、その他の組織型 1 人、不明が 1 人であった。なお、令和 5 年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された 27 人のうち、喫煙者（過去喫煙者も含む）は 20 人であった。

表 3-2 令和6年度（4～9月） 肺がん個別検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和6年度に肺がん及び肺がん疑いと診断された 19 人のうち、肺がんにて詳細確認中が 3 人、肺がん疑いにて医療機関照会中が 16 人である。

4 個別検診における詳細なプロセス指標について

(1) 一次医療機関ごとのプロセス指標(資料4)

【結果】

・令和6年度当初、協力医療機関は124医療機関。令和5年度の一次医療機関別プロセス指標について、要精検率が基準値を達成している医療機関は39医療機関、精検受診率が基準値を達成している医療機関が80医療機関、がん発見率が基準値を達成している医療機関は13医療機関、陽性反応適中度が基準値を達成している医療機関は11医療機関であった。

(2) 二次読影医のプロセス指標（二次読影医別プロセス指標：資料5）

表4 二次読影の判定状況(吹田市全体)

	二次読影数 (人) ※1	読影委員会対象者 (人) ※2	要精検者数 (人) ※3	要精検率	精検受診者数 (人)	精検受診率	がん発見数		がん発見率	陽性反応 適中度	
							0～Ⅰ期がん (再掲)	0～Ⅰ期がん 割合			
令和5年度	17,336	403	302	1.7%	290	96.0%	12	4	33.3%	0.07%	4.0%

※1：一次読影にてb・cと判定した数 ※2：二次読影にてd・eと判定した数 ※3：最終読影にてEと判定した数

【結果】

・要精検率、精検受診率は基準値を満たしている。がん発見率、陽性反応適中度については基準値を下回っており、基準値を満たしていない。

【参考】精度管理指標と基準値(40～74歳)

精検受診率	90%以上
要精検率	2.4%以下
がん発見率	0.10%以上
陽性反応適中度	4.1%以上

参照：厚生労働省令和6年7月
がん検診の在り方に関する検討会

5 結核検診実施状況(令和6年12月1日時点)

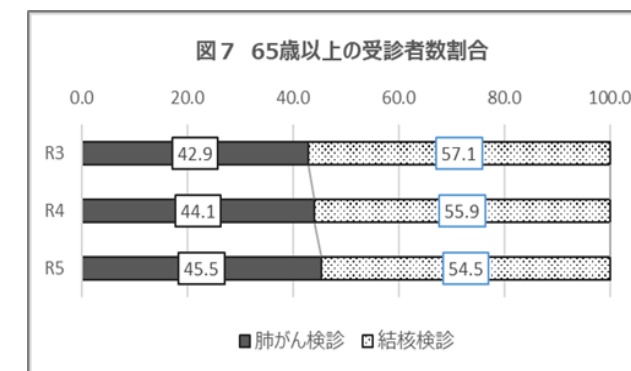
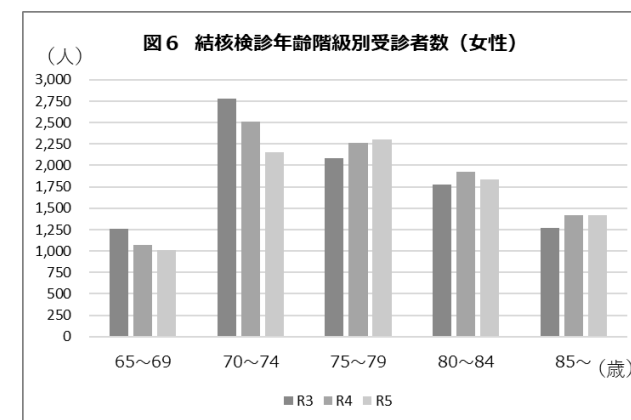
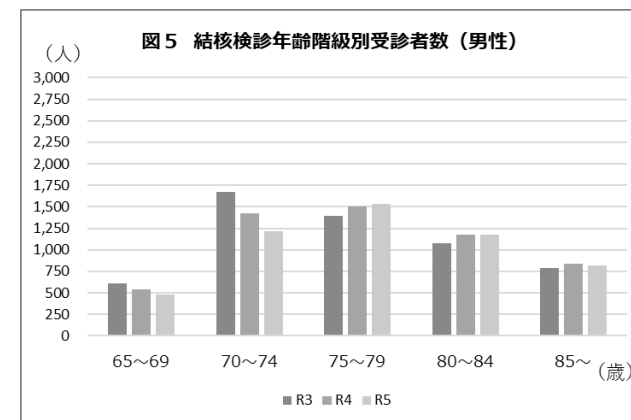
表5 令和3年度～令和6年度（4～9月） 結核検診実績

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (4～9月)
対象者数		90,049	90,403	90,949	
受診者数		14,709	14,676	13,954	6,716
受診率		16.3%	16.2%	15.3%	
要 精 検 者 数	結核疑い	31	44	42	23
	肺腫瘍性病変	314	327	309	154
	合計	345	371	351	177
要精検者率		2.3%	2.5%	2.5%	2.6%
精検受診者数		311	327	314	123
精検受診率		90.1%	88.1%	89.5%	69.5%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	116	97	112	46
	活動性結核	0	0	0	0
	がん	7	9	6	1
	転移性肺腫瘍	0	2	0	0
	がん疑い	5	9	10	5
	その他	184	210	185	71
未受診/未把握		34	44	37	54
がん発見率		0.05%	0.06%	0.04%	0.01%
陽性反応適中度		2.03%	2.43%	1.71%	0.56%

・結核検診の対象者は、65歳以上（感染症法第53条の2の第3項に基づく検診）

【結果】

- ・令和5年度の受診者数は、男女ともに75～79歳が最も多い。（図5、図6）
- ・65歳以上の受診者割合では、結核検診に比べて肺がん検診受診者の方が多い。（図7）
- ・結核検診にて発見された活動性結核の者は、令和3年度以降、令和6年度9月受診者まで0人であった。（表5）



6 結核検診にて肺がんであったケースの詳細（令和 6 年 12 月 1 日時点）

表 6-1 令和 5 年度 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 6-2 令和 6 年度(4～9 月) 結核検診 肺がんであった者（がん疑い、医療機関照会中を含む）

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

【結果】

- ・令和 5 年度に肺がんと診断された 16 人のうち、臨床病期が確定しているのは 6 人であり、初回が 2 人で非初回が 4 人だった。非初回の 4 人のうち 3 人がⅡ期以降で発見されており、前年度結核検診の結果は全員異常なしであった。組織型は、腺がん 4 人、扁平上皮がん 2 人であった。（表 6-1）
- ・令和 5 年度に肺がんと診断された又は肺がん疑いと診断された 5 人については、現在医療機関照会中である。（表 6-2）